

様式第4号

令和3(2021)年 4月 1日

伊丹市議会議長
佐藤 良憲 様

議員名 岸田 真佐人



2020年度政務活動費収支報告について

伊丹市議会政務活動費の交付に関する条例第6条の規定により、別紙のとおり
2020年度政務活動費収支報告書を提出します。

(別紙)

2020 年度政務活動費収支報告書

議員名 岸田真佐人

1 収入

政務活動費 720,000 円

2 支出

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
調査研究費		
研修費		
広報費	720,000	チラシ作成、印刷 ウェブサイト作成と管理
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合 計	720,000	

3 残額 0 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

政務活動費 出納簿

議員名：岸田 真佐人

(単位：円)

今年度(政務活動費)予算額 ⇒ 720,000

[illegible]

政務活動費集計表

議員名：岸田 真佐人

(単位：円)

支出総額: 720,000

[illegible]

参考書類 1

政務活動費における活動報告書

[illegible]

参考書類 2 - 1

〔調査研究費、研修費、**広報費**、広聴費、要請・陳情活動費、会議費〕 ※該当項目を○で囲む

報 告 書

		領収書 番 号	2、4、6、8
日時	2020 年 4 月 24 日、2020 年 7 月 28 日、2021 年 3 月 15 日		
場所 (視察地)	大阪府泉佐野市旭町 13-17		
参加者 出席者 相手方	栗山 由壮		
目的 内容 結果 (成果) 等	目的 1. 自身の活動方針を市民に伝えるため 2. 自身の活動報告をするため 3. 市民からの要望を集めるため 4. 市民に活動報告をするため 5. ウェブサイトへの誘導をするため 6. ウェブサイトを毎日更新するため 内容 1. ウェブサイト運営 https://itaminomirai.studio.site/blog 活動報告ブログ、活動方針、コメント 2. ジャーナル発行 (別紙) 成果 1. 街頭活動中、ウェブサイトの内容をもとに市民の意見を聞いた 2. ウェブサイトのコメント欄から市民の要望を聞いた 3. ジャーナルを配布することで訪問活動を活性化することができた 4. ジャーナルを配布することで公式ウェブサイトの閲覧者が増えた 5. 街頭でジャーナルを配布することで、市民との接点が生まれた		
上記活動に 要した経費	経費の内容・積算基礎等		金 額(円)
	ウェブサイト更新作業料 平日は毎日		360,000
	Journal デザイン・コピーライト・編集 4 回分		256,000
	Journal 印刷費 3800 枚×2 回 3500 枚×2 回		104,000
	税		72,000
	合計		792,000

《領収書添付台紙》

領収書 番 号	2
------------	---

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容	ウェブサイトデザイン ウェブサイト実装作業		
総経費	198,000 円	政務活動費として 計上する額	180,000 円

按分内容

ウェブサイトの中で議員の写真や名前が占める割合は10%程度であるため、
政務活動費を180,000円、自己負担を18,000円（10%支出）とした。

《領収書添付台紙》

領収書

2020.04.24
請求番号:20200424-01

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 ￥198,000-



栗山 由壮

98-0052
大阪府泉佐野市旭町13-17
Phone:090-9612-0173
mail:nombredesign@gmail.com

品番・品名	数量	単価	金額
Jounal Vol.04			
デザイン制作費(ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費	1	26,000	26,000
サイト更新料(4月・5月・6月)	3	30,000	90,000
		小計	180,000
		消費税(10%)	18,000
		合計金額	198,000

領収書 番 号	4
------------	---

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容	ジャーナルのデザイン・コピーライト・編集 ウェブサイト更新作業 3か月分		
総経費	198,000 円	政務活動費として 計上する額	180,000 円

按分内容

ウェブサイト及びジャーナルの中で議員の写真や名前が占める割合は 10%程度であるため、政務活動費を 180,000 円、自己負担を 18,000 円（10%支出）とした。

《領収書添付台紙》

領収書

2020.07.28
請求番号:20200728-01

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 ￥198,000-



栗山 由壮

〒598-0052
大阪府泉佐野市旭町13-17
Phone: 090-9612-0173
mail: nombredesign@gmail.com

品番・品名	数量	単価	金額
Jounal Vol.05			
デザイン制作費(ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費	1	26,000	26,000
サイト更新料(7月・8月・9月)	3	30,000	90,000
		小計	180,000
		消費税(10%)	18,000
		合計金額	198,000

領収書
番号

6

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容

ジャーナルのデザイン・コピーライト・編集
ウェブサイト更新作業 3 か月分

総経費

198,000 円

政務活動費として
計上する額

180,000 円

按分内容

ウェブサイト及びジャーナルの中で議員の写真や名前が占める割合は 10%程度であるため、政務活動費を 180,000 円、自己負担を 18,000 円（10%支出）とした。

《領収書添付台紙》

領収書

2021.03.15
請求番号:20210315-01

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 ￥198,000-



栗山 由壮

〒598-0052
大阪府泉佐野市旭町13-17
Phone:090-9612-0173
mail:nombredesign@gmail.com

品番・品名	数量	単価	金額
Journal Vol.06			
デザイン制作費(ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費	1	26,000	26,000
サイト更新料(10月・11月・12月)	3	30,000	90,000
小計			180,000
消費税(10%)			18,000
合計金額			198,000

領収書
番号

8

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容

ジャーナルのデザイン・コピーライト・編集
ウェブサイト更新作業 3 か月分

総経費

198,000 円

政務活動費として
計上する額

180,000 円

按分内容

ウェブサイト及びジャーナルの中で議員の写真や名前が占める割合は 10%程度であるため、政務活動費を 180,000 円、自己負担を 18,000 円（10%支出）とした。

領収書

2021.03.15
請求番号:20210315-02

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 ￥198,000-



栗山 由壮

〒598-0052
大阪府泉佐野市旭町13-17
Phone:090-9612-0173
mail:nombredesign@gmail.com

品番・品名	数量	単価	金額
Journal Vol.07			
デザイン制作費(ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費	1	26,000	26,000
サイト更新料(1月・2月・3月)	3	30,000	90,000
小計			180,000
消費税(10%)			18,000
合計金額			198,000

THE FUTURE OF ITAMI | Vol.04 2020

2020
Vol. 04

THE FUTURE OF ITAMI

Feature

教育のICT化を考える

Publisher

MASATO KISHIDA
Itami-City council member



image photo

教育のICT化を考える

文部科学省は教育の情報化の推進施策の一環として、「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業（学校における先端技術の活用に関する実証事業）」を2019年度に始めました。

2020年から新しい小学校の学習指導要領が始まりました。文部科学省のサイトには『学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、子供の学びが進化します。新しい学習指導要領、スタート。』とあります。グローバル化やアクティブラーニング、プログラミング教育等が新たに加わりました。従来の詰め込み型教育といわれる教育では伸びることができなかった膨大な知識や情報の中から必要なものを、主体的に選び取り活用できる「情報活用能力」や「創造力」の育成、双方向型の授業やアクティブラーニングの能力を伸ばすことが目的です。そういったこれからの教育は、ICT（情報通信技術）を用いることで教育環境に組み込むことが可能になります。学習指導要領というのは、10年毎に時代に合わせ改正されていくので、この先10年を見越した教育プログ

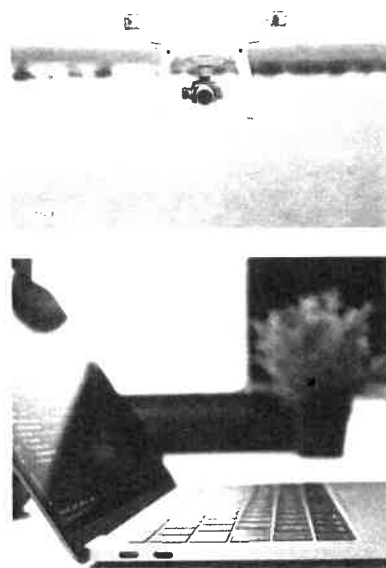


image photo

ラムであることを切に願います。現代社会も、ここ 10 年で大きく変化しました。情報共有等による業務の効率化や、クラウド共有、オンライン会議による場所にとられない業務を可能にし、身近なシーンで言えば SNS やチャットといったコミュニケーションの活用、病院やホテル、飲食店等の予約、買い物などはネットショッピング、アプリによる個人売買等、現在も加速度的に変化をしています。これらの多くが、ICT や、AI によるビッグデータの活用により実現しています。5G が本格化すればますます劇的な変化になるでしょう。教育環境においても、電子黒板の導入や、タブレットを活用した授業、デジタル教科書や学習用ソフトウェアの活用が始まっています。しかし、今はまだ変革の過渡期であり、現場レベルでは混乱や過去の慣習といった弊害も小さくないと思われます。また、予算上の問題、インフラの地域格差、

個々の学校や教育委員会、行政などの取り組み姿勢による格差が大きく関わってきます。その中でも最も大きな課題が『ICT 活用指導力』だと思います。新しいテクノロジはあくまでも単なる手法にすぎず、それらをいかに活用し、より良い教育ができるかが本来の目

的になります。しかし、それを従来の教育現場の人材で全てを効果的に運用するのは無理があります。そもそも、教育現場は慢性的な人手不足であり、業務過多も問題になっています。加えて、ICT やプログラミング等の専門的な知識を有している職業ではありません。



ん。いかに国策で教育の ICT 化の推進を図ろうとも、それらを適切に扱え運用できる人材がいないのであれば、「絵に描いたモチ」にすぎません。そうすると今後、専門職の外部人材の登用や支援、協力を得るシステムが必要です。そのシステムは現在、教育関係者ではない人材を含む全く新しい環境の整備が必須であると考えます。奇しくも現在コロナウィルスの流行により世界が混乱し、学校も休校し学習計画も深刻な状況ですが、教育の ICT 化・普及が進んでいれば、オンライン授業や、学習用ソフトウェアを使った学習もある程度可能だったでしょう。実際、オランダでは約 9 割の小中学校でインターネットによる遠隔授業が行われているようです。そして、これらのテクノロジの進化によってよりよい社会、新しい価値の創造を担っていく教育が推進していくことを強く望んでいます。

伊丹市議会議員 岸田 まさと

MASATO KISHIDA
Itami-City council member

THE FUTURE OF ITAMI!

いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に！

AERO CITY ITAMI



1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。
「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」を目指します。

いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。



SONG'S STORY MASATO'S SELECTION

ぞうさん

「作詞」まじみちお
「作曲」団伊玖磨

ぞうさん ぞうさん

お鼻が長いのね

そうよ母さんも長いのよ

ぞうさん ぞうさん

誰が好きなの

あのね母さんが好きなのよ



これまで何気なく聞いていた、この歌詞の新しい解釈を知りました。それは小象が、他の動物に「君は鼻が長くて変だね」と言われているという状況の歌だという説です。それに対して、小象は「そうだよ、母さんの子どもだから当然だよ」と胸を張って答えているというのです。そして2番の歌詞では、そんな母さんが好きだと続きます。この話を、ある在日コリアンの方から聞き、心から感動しました。違っていることを誇りに思える社会にしたいものです。

THE FUTURE OF ITAMI | Vol.05 2020

2020
Vol. 05

THE FUTURE OF ITAMI

Feature

目指すべき街について

Publisher

MASATO KISHIDA
Itami-City council member



image photo

目指すべき街について

世界中で感染拡大を続けるコロナウイルスですが、コロナ以前から存在していた問題も加速度的に対応が迫られる事態となっています。



2020年1月に中国・湖北省武漢市を中心に感染が広がった新型コロナウイルスですが、このコロナによって浮き彫りにされた大きな問題の一つが都市部の一極集中構造です。世界中で同じ問題が起こっていますが、人々が生活していく上で都市部に人口が集中せざるを得ない構造になっています。逆に郊外や農村部では過疎化が深刻な問題となっています。この問題は、コロナ以前から言われていた課題の一つではありますが、コロナだけに焦点を当てたとき人口がここまで都市部に集中していなければ、これまでの感染拡大は起きなかった可能性があります。なかでも大きな要因の一つが仕事です。都市部に企業が集中し、仕事を求めて人口が集中します。都市部にしかない仕事も多く、多くの企業が本社を都市部に拠点を置きます。アクセス等の利便を考えると

メリットはありますが、今の時代本当に都市部にしかない仕事や、本社を都市部に置くことが必要でしょうか。特に今のコロナ渦においては極力控えたほうが懸命なのは明らかです。全ての業務がリモート化できるとは思いませんが、極力リモート化できる分野は積極的にリモート化するべきだと思います。それにより企業は大幅な経費削減も可能です。次に本社を都市部に置くことについてですが、すでに郊外や地方都市に本社を移行する企業も増加傾向にあります。こちらについては、企業側にもメリットも多いので今後ますます増加傾向が続くと思われます。しかし、求職者の価値観については、まだまだ「都市部で働きたい」「田舎には仕事がない。」と思っている人も多いと思います。そこで今後、重要になっていく価値観が、年代によるライフスタイルの変化と、土地のポテンシャルにあると思います。まず、ライフスタイルの変化ですが20代を都市部で生活することに關しては、とて

も刺激的で向上心の多い同年代の若者も多く、有意義な経験だと思っています。しかしそれらは、現在オンライン上で多くの事が可能です。そして、減少傾向にあるとはいえ30代は多くの人が家庭を持ち、住む所を決めていくタイミングになります。昔のように年齢が上がるにしたがって収入が増加傾向にあるのなら都市部に住み続けるのも悪くないでしょう。ただ、現在それは簡単なことではないでしょう。そうなることでは良くて微増、年々支出は増えていきます。そのような時代に物価も高く、消費行動の誘惑も多く、現状感染症のリスクも高い、都市部に住み続けるリ

スクは非常に高いと言わざるをえません。次に土地のポテンシャルですが、働き方改革により生産性の向上と勤務時間の縮小が叫ばれていますが、その先にある余暇をどう過ごすかということが重要になってくると思います。ストレスの多い現代人の余暇はアナログな体験や自然に触れるという需要が高まっています。子育て世代であれば、なおさら子どもを自然に触れさせたいと思うのではないのでしょうか。コロナ渦の現在ではなおさら人口密度の高い場所には足が伸びません。しかし、都市部に住んでいると人が少ない自然のある場所に行くのには少なくともお金と体

力、時間がかかってしまいます。しかし、多くの企業が本社を地方に移すのでしょうか。過疎化していた土地に子育て世代が増え、税収も増え、生活に役立つサービスも増えていきます。そこで働く人達も、週末にはサーフィンやクライミング、子育て世代であれば気軽にキャンプ等、自然に触れる趣味ができるかもしれません。需要が高まっていくと、それにまつわる仕事も増え、また人と雇用が生まれます。それらは身体的にも精神的にも豊かで健康的な生活であり、これから目指すべき余暇のカたちではないのでしょうか。そのような街をつくるために行政のできることは、企業の誘致やここで何度も触れた空き家の有効活用、その土地が持っている伝統的なポテンシャルのアピールだと思います。これからは、旧岡田家住宅や柿衛文庫、伊丹市立美術館のような文化的な施設や園芸や酒造といった伝統的な文化のアピールが伊丹市への転入のきっかけになっていくと考えています。



伊丹市議会議員 岸田 まさと

MASATO KISHIDA
Itami-City council member

THE FUTURE OF ITAMI!

いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に！

AERO CITY ITAMI



1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。
「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」を目指します。



いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。

SONG'S STORY MASATO'S SELECTION

里の秋

〔作詞〕斎藤 信夫

〔作曲〕海沼 実

静かな静かな 里の秋

お背戸に木の実の

落ちる夜は

ああ 母さんとただ二人

栗の実 煮てます

いろいろばた



田舎育ちの私にとって、実家の風景がよみがえる歌です。「母さんとただ二人」という部分から心に迫るメロディーが続きます。しかしなぜ母さんと二人きりなのかを考えたことはありませんでした。それが三番まで調べてみると驚くべき理由があったのです。なんと父が太平洋の島へ出兵して帰ってこないという状況だから「母と二人」だったのです。作詞者は小学校の先生で、軍国教育をした反省から敗戦後に退職したそうです。

THE FUTURE OF ITAMI | Vol.06 2020

2020
Vol. 06

THE FUTURE OF ITAMI

Feature

今後の働き方について

Publisher

MASATO KISHIDA
Itami-City council member



今後の働き方について



2019年に働き方改革関連法が施行^アされました。アフターコロナによってワークライフバランスにはどのような影響があるのでしょうか。

厚生労働省によると「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」、「働く方々のニーズの多様化」に対応するために生産性の向上や就業機会の拡大や能力を発揮出来る環境づくりが不可欠で働く人一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指します」とあります。

ここに至るまでの経緯を考えると、そもそも終身雇用や年功序列という制度が、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」に伴い時代に合わなくなり「働く方々のニーズの多様化」に繋がり、先進的な一部の人たちが、ワークライフバランスやクオリティオブライフといった考え方を掲げ、生産性の向上や能力を発揮出来る環境をつくりだしました。行政もそれを後押ししたカタチかなと思います。しかしながら、全ての企業や働く人々が順応出来る職種や環境ではないので、課題は多く

ありました。そこに2020年初頭、コロナウイルスの感染拡大が起こりました。経済も混乱し、コロナ以前の課題もあり、コロナ後に浮き彫りとなった課題も多くあります。都市部の一極集中と通勤の問題もその一つです。結果論ですが、都市部にここまで人口が集中していなければ今回のような規模の感染拡大にはならなかったと思います。ワークライフバランスの観点から見ても、多くの人が同時刻に同じ交通手段で同じく都市部に通勤をすることで起きる慢性的な通勤ラッシュも冷静に考えると非常にストレスフルな状況です。また、コロナウイルスの感染拡大により奇しくも業務のリモート化も非常に進みました。こちらに関しては、コロナ後においてもますます進んでいくでしょう。その時、作業環境が問題になってくると思います。自宅で快適に生産性の高い環境をつくることは、コストもかかりま

すし、立地や住環境、家族構成等に左右されるので構築が難しい人も多いと思います。そこで、便利なのがコワーキングスペースやシェアオフィスになります。現在もすでに多くのコワーキングスペースがあり、その多くは都市部にありますが、ニーズが高まっていることもあり全国的に増加傾向にあります。伊丹市においても伊丹5丁目に元酒蔵をリノベーションしたシェアオフィスがあります。このように広がり続けるコワーキングスペースやシェアオフィスですが、前号（Vol.05）目指すべき街についてでも掲載したように、本社を都市部ではなく、地方に移動する動きも活性化すれば相乗効果が生まれ、



都市部の一極集中、通勤ラッシュも緩和されるでしょう。更に、次の展開としては現在のベッドタウンに大型のコワーキングスペースやサテライトオフィス等が増えれば、ベッドタウン未満の都市や過疎化が進んでいる地域にも人口増加の兆しが見えてくると考えています。そうなれば、そういった地域での就業機会やニーズが増えることで新たなサービスが生まれ、街も経済も潤滑していきます。そのためには、先立ってベッドタウンである伊丹市にコワーキングスペースを増やす必要性があります。個体数が

増えれば利用料金も安定し、サービスの向上が図れます。以前（Vol.02 待機児童について）も掲載しましたが、空き家問題も無関係ではありません。コワーキングスペースやシェアオフィス自体、概念としては新しいものですが、建物や環境が新しい必要はなく、予算を掛ければ良いというものでもありません。最低限、PCで作業できるスペースがあり、インターネットが快適に使用出来れば、あとはオーナーがどのような空間を提供するかです。無機質な空間の方が捗る人もいれば、歴史を感じる空間の方が捗る人もいます。多様性があつた方がユーザーの選択肢も増えます。また、コワーキングスペースやシェアオフィスには、その『場所』から生まれる文化交流がメリットの一つでもあります。伝統的な文化と新しい概念が融合し、地域が盛り上がるようなアイデアが生まれる『場所』がたくさんできれば、新しい文化の発信地として街の強いアピールにも繋がると思います。

THE FUTURE OF ITAMI!

いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に!

AERO CITY ITAMI



伊丹市議会議員 岸田 まさと

MASATO KISHIDA
Itami-City council member

1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。
「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」を目指します。



いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。

SONG'S STORY MASATO'S SELECTION

シャボン玉

「作詞」野口 雨情
「作曲」中山 晋平

シャボン玉飛んだ
屋根まで飛んだ
屋根まで飛んで
こわれて消えた
シャボン玉消えた
飛ばずに消えた
うまれてすぐに
こわれて消えた
かぜかぜ吹くな
シャボン玉飛ばそ

この歌の裏話は、いまさら説明するまでもないかも知れませんが、生後間もなく亡くなった子どもをテーマにした、という説が有名です。実際に作詞者は、一人の子どもを二歳以下で亡くしています。私自身、子どものころからこの童謡を知っていました。しかし自分が子を持つ立場になり、その成長を楽しむようになってから、それまでと全く違う印象の曲になったのです。心の深いところに届くようになり、聞かたびにウルつときます。



THE FUTURE OF ITAMI | Vol.07 2021

2021
Vol. 07

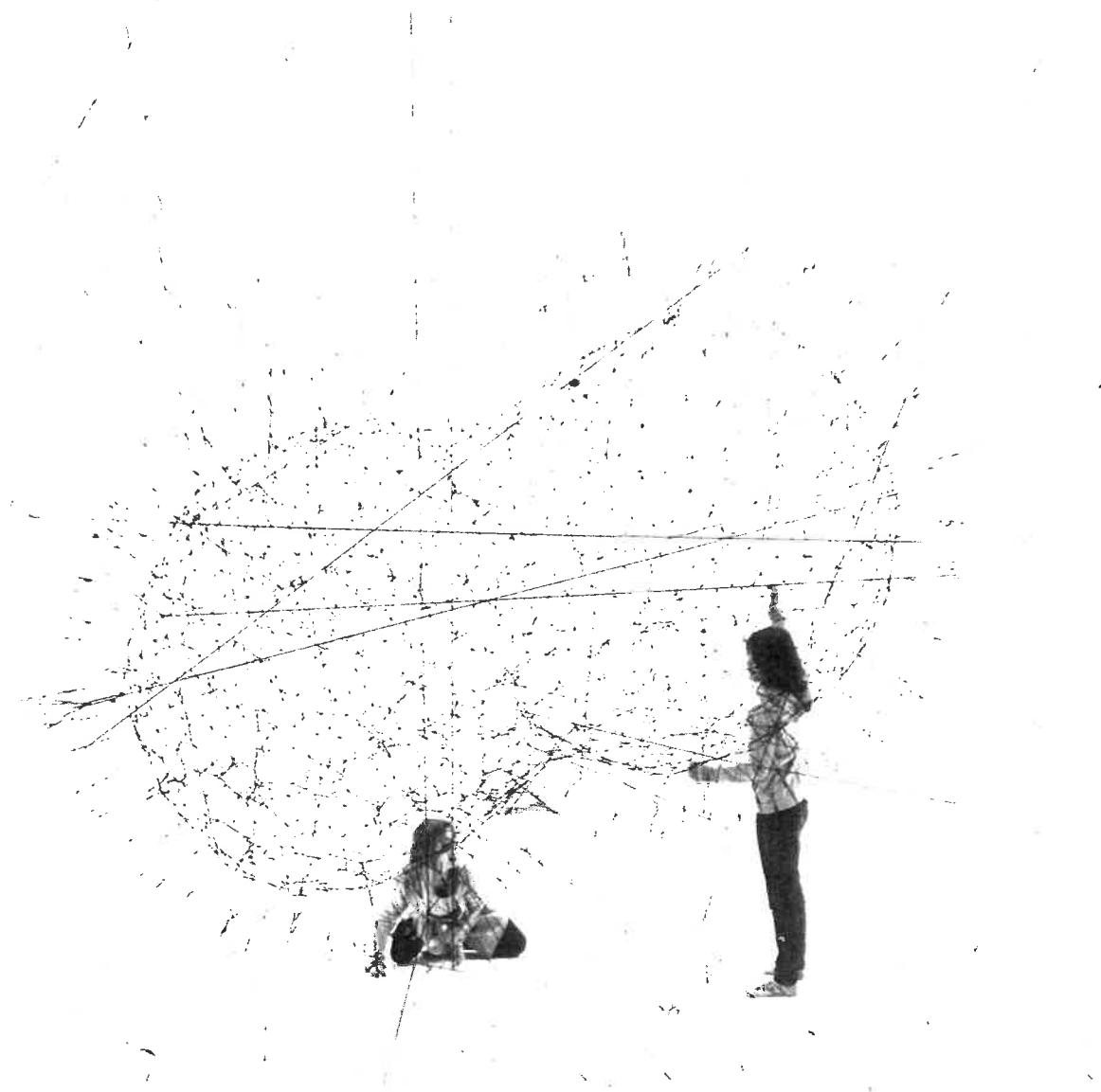
THE FUTURE OF ITAMI

Feature

アート思考について

Publisher

MASATO KISHIDA
Itami-City council member



アート思考について

これからの時代において重要になってくる「アート思考」そして、日本においてのアートという存在の特異性。



社会のグローバル化が進み、IoTやAI、スマホやウェアラブルデバイス、ロボットなど、さまざまな技術が登場したことにより、社会は劇的に変化しました。そのような社会に対応すべく昨年、2020年から始まった学習指導要領によりグローバル化やアクティブラーニング、プログラミング教育が必修化され、論理的思考や問題解決能力、情報活用能力などが、これからの社会で身につけるべき必須の能力になるので、教育現場にも組み込まれました。ものがない時代においては役に立ち、目標やターゲットを定め、コストパフォーマンスを競うという論理的な正解を導き出すことが重要課題でしたが、価値感が多様化し、AIやテクノロジーといったシステム上の理論や論理的思考では答えを出せない課題も生まれてきます。そのような課題に対して、新しい発

想や創造力といったクリエイティビティで解決するという考え方が、「アート思考」であり、今後の社会を生きる上で重要な要素になります。今の時代は、ものが溢れ供給過多になっており、役に立つであるとか、論理的な正解だけが絶対的な価値に結びつくとは言いきれない時代に突入しています。ではこれからの時代、人はどういったものに価値を見いだすのでしょうか。それは、「広く感性や嗜好に訴えるもの」や従来どおり「見たことがないもの」が求められることになるでしょう。こういったものを生み出すために必要な能力が「アート思考」であり、審美眼や美意識といったものになります。そもそも、哲学やアートは既知の考え方や定説に対して、問題提起や、アンチテーゼを唱え、次世代の考え方や定説を提示するという視点があります。ただ、論理的思考や問題解決能力、情報活用能力がそれらにとつてかわるという話ではなく、あくまでそれらの能力を使う上で個人の美意識や意思決定、

哲学や倫理、時代性といった背景が重要視される「アート思考」が求められる時代になるのだろうと考えます。しかし、日本においてアートは欧米と比較したときに大きく違いがあります。教育や文化的背景が違うので、もちろん差異はあるのですが、日常的なところで比較してみても美術館や博物館等のあり方がそもそも違います。欧米では、社会的に公共の学びの場という役割が大きく小さな子どもが名画の前でお絵かきをしたり、美大生がイーゼルを組んで模写してい

たり、日本における図書館のようない日常に溶け込んだ学びの場という印象です。日本においての美術館や博物館は、入館料等も違うので一概には言えませんが、子どもや学生が日常的に行く場所というよりは一部の大人が静かに愉しむための場所という印象です。また、運営側も欧米のキュレーターと日本における学芸員の立ち位置もかなり違います。欧米におけるキュレーターは展覧会の企画や構成、マネジメントなどを行い、高度な専門職として社会的評価が高い存在で、フ



リーランスのキュレーターが企画する個性的な展覧会等も世界中で数多く存在し、現代アートの興隆に必要な不可欠な存在です。一方、日本における学芸員の役割は、主に収集、保管、展示といった管理をメインに行っている印象です。このように、アートを学び楽しむのが特別なことではない環境の欧米と比較すると、日本におけるアートという存在の特異性が目立ちます。いまや、先進国において生産性が低いと言われる日本ですが、論理的思考や問題解決力の差がありながら、次世代には「アート思考」も求められるとなれば、ますます欧米との差が浮き彫りになるのではないのでしょうか。伊丹市では、美術館を含む『みやのまえ文化の郷』と『伊丹市博物館』が新しい総合ミュージアムとして複合化し、2022年に完成予定になります。年齢や立場にかかわらず純粋にアートを学び、楽しむためにも「アート思考」を養うためにも日常的に学び、楽しめる施設になることを期待します。

伊丹市議会議員 岸田 まさと

MASATO KISHIDA
Itami-City council member

THE FUTURE OF ITAMI!

いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に！

AERO CITY ITAMI



1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。
「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」を目指します。



いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。

SONG'S STORY MASATO'S SELECTION

旅立ちの日に

〔作詞〕小嶋 登 〔作曲〕坂本 浩美

白い光の中に
山並みは萌えて
はるかな空の果てまでも
君は飛び立つ
限りなく青い空に
心ふるわせ
自由をかける鳥よ
振り返ることもせず
(中略)
今 別れの時
飛び立とう
未来信じて
はずむ若い力信じて
この広いこの広い
大空に

卒業式の定番ソングですが、
作られたのが1991年な
ので比較的新しい曲です。私
が教員になった当時の卒業
式は「蛍の光」と「仰げば尊
し」でした。しかし徐々にこ
の歌が採用され始めました。
3年生の担任をして卒業式
を迎え、この歌を聞いた時の
感動は忘れられません。どの
学校に勤めても、3年間の苦
労が卒業式の一曲で報われ
た気になるのが不思議です。

